

めだかの学校だより

平成 19 年 5 月 1 日
第 56 号

学舎：東久留女木新田観音山
「みどりの郷キャンプ場」内
事務局：浜松市浜北区
横須賀 395-1
TEL053-586-8287

校長訓話

第五十六回校長 岩本 伴江

アメリカに孫の出産の為、産後のお手伝いに1ヶ月ほど行ってきました。オハイオ州カヤホーガ。アクロンからクリーブランドに掛けて日本から仕事で来ている駐在員は100家族を越えます。新米ママさん達は遅く、こちらで無痛分娩出産をします。不安もあり、心細さもあり、それを乗り越え夫婦で頑張って生活をしています。若い母親がネットワークで助け合いながら社会を作っています。人はいろんな所で成長しますが、見知らぬ土地でゼロからの人間関係を築いていく、そして子供を産み成長を願う。こんな誰もが普通に暮らしている当たり前の日常が貴重だとつくづく感じました。日本経済を支えている小さな庶民のいる事を忘れないで下さい。

私も主人の仕事の関係で八年ほどブラジルと行き来しました。ブラジルには正味三年半ほど住んだ事になります。広大な国ブラジルは資源が無限にあり、自国で全て生産出来るのではないかと思うほどです。ガソリン、石油、農産物、鉱物、宝石類も原石が豊富に産出され豊かな国です。

アマゾン川は東京から大阪までの川幅と云

う驚異。世界で一番のイグアスの滝は、3キロメートルも滝が続いている驚異。自然を自分の眼で観、足で歩いて感性を磨いたのは、素晴らしい経験です。

都市が宇宙ステーションの様にポツリポツリと点在し、固まりになって出現する様は国土の大きさそのもの。その間はただただ草原だったり、農地だったり、牧場だったり、傍目には裕福な土地持ちが居るはずと思われる貧富の差。そしてファベラと呼ばれる極貧のスラム街は奴隷の国だったと云う事実を突き付けます。

昔、日本人が移民し、今は140万人ほどになっています。移民した一世の方達は日本の国から棄てられたと思われるほど過酷な労働でした。その中を生き抜き助け合いながら現在に至っています。日系人街と呼ばれるリベルダーデの街も今は韓国系、中国系が入り東洋人街になってしまいました。

日本文化を紹介するには最適な町です。今でも朝のラジオ体操が行われ、社交ダンス、カラオケ、ゲートボールが盛んです。運動会は日本そのものでむしろこちらが懐かしく思うほどです。

出稼ぎと言われ職を求めて日本に来ている日系人に優しく接してあげて下さい。彼らは日本の国を真面目に働けば認められる正直な日本人の血が流れている事を誇りに思うで

しよう。
“ジャポネーズ、ガランチード”(信用ある日本人)ブラジル社会でも日本人は一目置かれています。
友好的な国を増やし、国際親善を成功させて欲しいですね。世界はどこでも住めば都です。

追伸

榎原さんは島田分校設立の為の準備として私達「連んでいる」島田グループに目を付けた様ですが、往復の四時間は車の中で社会問題の花盛り。農業、地域興し、教育、少子高齢化、ひいては田舎暮らしの醍醐味等話の尽きる事はありません。

次の日、喉がヒリヒリです。

そんな訳で私達はこんな貴重な時間をミスミス手放すなんて思っておりません。榎原さんの魂胆は当てが外れた様です。

しっかり本校に通い気楽に参加し、美味しい給食を頂き、皆様の顔を拝見し、充実した1日だったとぐっすり休ませて頂く。こんな幸せはありません。本校のめだかの学校が益々発展しますように心から応援します。



めだかの学校伝言板

——第56回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／岩本伴江

教頭／古田賢二郎

用務員／鈴木一記

給食係／佐藤律子・寺田悦子・荒木順子・

鈴木真弓・尾上美智子・萩田博・鈴木正士・

古田賢二郎・徳増兼弘・馬淵亮太・加藤修一・

渡辺三ツ子(チーフ)

<学舎> 静岡県浜松市北区引佐町東久留女木観音山
みどりの郷キャンプ場

開校日／平成19年6月1日(金)6:20PMより
受付／城内実・鈴木計芳・西川裕子

斉藤昭(後見人)

<時間割> ~愛あればこそ『もの』は生れる?~
一本職だヨ、人生は?~

一時間目／理科「ウレタンと竹炭とマスク」

浜口弘睦先生

二時間目／道徳「合気道は愛気道」

寺田悦子先生

三時間目／社会「どうづら屋って、なんずらや」

古橋利雄先生

給食の時間 ~新ジャガの美味しい季節です。
ご賞味あれ~

10:30 閉校

めだかの動き

泳ぎ回るめだかたち

■絵を見るメダカ

先日、クリエイト浜松で開かれた日本画の絵画展に行ってきた。日春展や日展に何回も入選されている。日本画の伊藤信次郎氏の展覧会である。...

画の山道や山里の家などを描いた風景めだか。感じさるの、その色使いがさわやか。飽くことなく、見る者の気持ちよく、湖や田んぼの水面が揺らめいて、木々の間から野ウサギなど、静かな動きが感じられる。...

■ごつくん馬路村誕生20周年記念「第5回全国まちづくり交流会 馬路村」

日程は2007年6月8日(金)〜10日(日)の3日間。この交流会は、2003年愛知県足助町(当時)で、足助町観光協会と、同倶楽部の設立10周年記念式典に、同地域づくりの交流の続く全国のがきつかけが始まった。...

■藤田吉恭メダカの手創り工房「和の森」一周年感謝祭

和の森」一周年感謝祭。手創り工房「和の森」の物が好き！そんな仲間と始めた「和の森」一周年の今年、家具、和布地品、サンダーブラなど、34名の作り手さんの作品を展示販売している。...



人・ひと・ヒト…だより

●浜松市の溝口久メダカ。県のNPO推進室から2年後に控える国民文化祭の準備室に。まさにびったり人事。

●磐田市の川島安一メダカ。静岡県農業試験場長から、組織改革した産業部次長。農政のかじ取り役に。文章もブログもマラソンも、動きだすと止まらないとか。

●森町の村松達雄メダカ。税務課から都市計画課に。集金係から消費係へ。ごめん。最近では緊縮財政で厳しいものね。

●浜松市の小野田宗弘メダカ。天竜養護学校で、美術の先生として子どもたちにはいい思いでを残して新任地の浜松東高校へ。新任地は美術の教科なく、一年生担任でバレー部顧問に。忍で頑張ってる！

●シンガポールの木村智子メダカ。子どもさんの学校のこともあり、ご主人を残して帰国。シンガポールでは最も難しいとされる観光案内人の資格を取得。造園・花にも造詣深い。実家は浜松市のフラワーセンター若草の柴田芳明メダカ。

●磐田市(旧豊岡村)の千葉弓江メダカ。「花咲乃庄」と農家レストラン「ぼくら屋」のスタッフとして6年間。この4月に「両親が待つ千葉県市川市へ」みなさん、ありがとうだった。

■バラさんの街角ファイル

「3月14日」浜松まちづくりセンターで、はまなこ環境ネットワークの勉強会。『魚が棲める浜名湖の水環境』。『アマモ場の造成と浜名湖の水環境』のお話。海草のアマモは、地下茎の多年草で水の浄化はもちろん、水中生物の揺りカゴ。浜名湖には昔はいっぱいあったのに今は限られた区域のみとか。

猪鼻湖では種子の一年草になって、ほとんど絶滅だつて。そんな中、三ヶ日町の夏目厚司メダカ。ミカンの剪定枝を炭にして湖底へ、炭素繊維は筏にのせて。何と炭を置いたところはドロが減り、炭素繊維にはアマモの芽と小魚が。造成のアマモ場の種子を付着させた実験用の土壌にも芽が。水の浄化にも活躍するアマモとアオサ。同じ海草でもアマモは枯れると湖底に沈んで生物の食べ物に。アオサは湖岸に漂着して腐り悪臭を放つとか。会場には、ガラ紡愛好会の井上啓子メダカと高木初美メダカ。環境ネットワークの事務局を預かるのは山内秀彦元メダカ。「協力し合おう」と他団体の人も親しくなってる。

「3月19日」浜松市フラワーパーク近くの手打ちそば処「ふじ花」へ。ちょっと前に今村純子さんが帰ったばかりと藤野利昭・はつえ夫妻メダカ。カケそばを「ごちそうさま」のあと、近くの村木謙式メダカのガラス工房へ、奥様がお店番。「主人は2月からロテル・ド・寸座の支配人で、好きなようにやっています」と笑ってました。「本格フレンチ料理・一泊二食・夫婦2人で一万円」ってダメかなア。

「3月23日」名鉄ホテルで「きれいな浜名湖づくりシンポジウム」。浜名湖における干潟の機能と再生について。浜名湖松見が浦における人工干潟実証実験の報告と説明。「干潟にはゴカイや貝・カニなどの生物が棲み付いて」。説明がくど過ぎるのか胸に響かない。これでは地域を巻き込んでの活動はムリでは。二日でも居たメダカ。隣りの席には古橋利雄メダカ。「豚の飼料に炭と竹酢液を0.8%混ぜて与えたら糞尿臭が大幅に軽減し、木屑や枯れ葉に混ぜたもの最高の有機堆肥が出来たけど、厄介なものアオサを使ったらどうだろう」と話掛けたら、「アオサの堆肥化は実証済みで、浜名湖園芸博会場

の樹木の土壌づくりで使用しました」だつて。資料を送ってくれました。

「間伐材の炭と豚の糞尿とアオサII有機堆肥」なにか循環型有機農法が出来そう。めだかの学校循環型有機農法プロジェクト。役者は揃ってますぞ。(この会場にも井上啓子・高木初美・山内秀彦等メダカが。)

「3月31日」森町の第5回遠州森町発「街並みと蔵展」へ。案内板も見えずウロウロ。森町役場に車を止め歩いてると横に人力車が。車夫は何と亀澤進メダカ。仕掛け人の榊原淑友メダカと蔵のあるお庭で、おもてなしのお茶を一杯。村松達雄メダカは「森の石松」の解説中。太田康雄メダカと松下信久メダカからは「いらっしやい、いらっしやい」とやっていた。森のメダカは元気です。

「4月1日」細江町の上嶋裕志メダカにのせられて、「姫街道・姫様道中」の警護侍に娘婿と。衣裳とメイク。「サムライ姿もカッコイイ！」。道中「あつ、バラさん」と耳塚信博メダカ。その横から「バラさんステキ」と久米かよ子元メダカの声。文化展には大橋町代メダカと森田泰子メダカ。伊藤英雄メダカは物産展。前夜のコンサートには西原弘メダカと成田雅志元メダカ。土井堅史メダカと上嶋裕志メダカは主催者側。とまだまだ居たよメダカたち。

「4月8日」掛川市横須賀の三熊野神社大祭へ。鈴木武史メダカはどこにて？と笠井屋へ。武史ママ「もう祭りとなると出っ放し」と諦め顔。神社では鈴木一記メダカとバツタリ。伝統芸能の写真を撮るんだつて。中村明男メダカは実家で大判焼きのお手伝い。武史メダカは屋台を引回していました。やつぱり絵に巻るなア。

「4月9日」磐田市の英ちゃん農園でサツマ芋の種子用芋伏せこみのお手伝い。牛糞堆肥をベースに種子芋を並べ、ピートモス培土を覆せ稲ワラを敷いて水かけ、ビニールシートを被せて完了。芋のどちらが頭なのか？見分けるのは難しい。ね、先生。

「4月15日」引佐町奥山の「いなさ自然休養村 つみくさ」が本日をもって15年の幕を閉じる。とあつて出かけた。「桜ご膳」をいただきながら、15年前初代支配人としてこの地に立った時の不安と希望が入り混じった複雑な気持ちだった時のことを思い出す。そんな私を応援すべくはじまった「めだかの学校」。そして学舎は「つみくさ」。

私にとって新たな人生への基点。「ありがとう！つみくさ」。

「4月2日」春野町の尾上美智子メダカ邸へ。以前来たよりも庭が素敵に。ご夫妻の庭づくりへの心が伝わってくる。「主人からは楽しいお話が。この家も女性性は強し。東京から七人の若者が来ていた。「お父さん・お母さん」いいねえ。

「4月28日」磐田市大平の鈴木正士メダカ邸で今年も「お茶摘みとタケノコ掘りと野草摘みと田舎料理とコンサート」。埼玉・千葉・東京・神奈川・名古屋などからのお客様に、尾上美智子・鈴木真弓・千葉弓江・清水秀子・榊原淑友・村松達雄・鈴木武史・溝口久・松本芳広・武井紀夫ら現役メダカや元メダカ。近くの人も加わってみんなで作った料理を味わいつつ、自己紹介しながら、あれやこれやわいわい

「朋 遠方より来る 亦楽しからずや」

「都会人と田舎人との交流」。来年は是非「あなたもこの席に」ね。

今回はこれまで。次回はあなたのごころへ。情報ください、待ってます。

「お知らせ」 「めだか春秋」はお休みとさせていただきます。

☆ひやうびつくり！コスモスの苗

2000本—— 島田の岩本伴江メダカ(第56回校長)から、4月28日の夕方、コスモスの苗2000本が宅配便で送られてきた。『エツ、2000本。マイツタなア』。予定のコスモスのタネ播きは、菜の花のタネを採ったあとの6月上旬。とにかく菜の花プロジェクト代表の石野省三メダカに連絡しなければ、と電話。『ううん、植えるところは……』。とにかく明日でできるか何人かの人に電話してみる。結果はほとんどムリ。岩本メダカには『ありがとう&マイツタ！』のFAX。折り返しFAXが……。『ごめんね。丈夫な苗だからすぐ植えなくても大丈夫』と。まさに段ボールの箱の中で頑張ってくれている。(5月5日現在)『もう少しがんばって！』とコスモスに声をかけながら折りつつ……。

追伸 孫も退院、たよりの原稿も終った。『さあ、明日は植えるぞ！』と妻の明美さんに。7日の朝のこと、ウワ、小さな虫とナメクジが！元気なはずの苗に。マイツタほんとにマイツタ。1本1本選りながら心は後ろに……。『ごめん、思いは叶えるから……』。 ◎今年『都田川水源まつり』は8月18日(土)に予定しています。

☆凄いやー！ゾウさんが乗っても大丈夫

森町の「もりぶ工房」の服部守孝メダカと磐田市の伊藤英雄メダカが「学舎の踏み台が傷んで危ないから……」と修繕を。修繕するつもりが再利用できず新しく作ることに。材料は地元久留米製材で分けてもらった。厚さセンチの桧材。カンナもかけていた。一本二百円。「タタみたい」と服部メダカ。2人が一日かけて。翌日、久留米製材に代金を払いにいきながら学舎に寄って見ると、ナ、ナント、『ゾウ

さんが乗っても大丈夫』の出来具合……。と、と、と、と、そればかりではなかつた。数日後、踏み台のカド部分にヤスリがけを、裏部分には揺れ止めのゴムを。そう『高齡者対応』だつて。失礼しちゃうよねえ、ホント。

◆事務局だより

5月4日は八十八夜。新茶の摘みとり、お茶の香りがたまらない。5月6日は旧暦で立夏。もう夏？。地球の温暖化で季節の移ろいが分かりにくくなっているけれど、一日一日を大切にしたいと思つこの頃です。

扱て、『第55回めだかの学校』は3月2日。校長池田誠二郎、教頭荒木順子、用務員岡淵亮太。三人の個性もまた面白い。池田校長、訓話の中で、心理療法よろしく心理テストをする。①仕事や家事・勉強などで忙しい毎日を送っていると感じていますか？②など25問。回答欄に「はい」「いいえ」があつて、2分間でどちらかに○をつける。「はい」の○が18以上の人は「せつがち」で心筋梗塞になりやすい、13〜17の人は「せつがちだけど……」でうつ病になりやすい。8〜5は「のんびり」で反応はにぶいなど、出席60人中「せつがち」が5〜6人いた。『笑う角には福来たる』。いい笑顔のリズムは『い行』。い・き・し・ち・に……試してみたら、いい笑顔になりますよ。15以上の生徒は顔をゆるめて『いー』『欠席もいー』。

扱て授業の方は、一時間目は川島安一先生。レジメを配つて、『農のある風景』。農業を言うものから入つて、農業がおかれている現場や、大東農産のように農業が産業になりつつあることを話す。二時間目の鈴木計芳メダカは、お茶の生産から販売まで、自らの商品を通じて「お茶」を語る。給食のお茶はその渋川茶。事務局からは、佐野久さん(12月24日他界)、岡田清多良さん(1月15日他界)、お二人の訃報をお知らせし、黙祷し「冥福を祈つた。

お待ち兼ねの給食は『ひな膳』。給食当番の欠席が多く、給食が遅れ気味に。早めに登校した生徒は給食の応援に。その甲斐あつて満腹満腹。ハラハラドキドキの私語飲食全て禁止の次回3役発表。第56回の校長は岩本伴江、教頭古田賢二郎、用務員鈴木一記。「エー、なんぞ私？」そう、『なんぞ！』が「めだか流、決めろ。最後はいつものように輪をつくつて再開を約しつ……」。

第56回めだかの学校の職員会議を、3月22日に磐田市のとよおか元氣村「味里」で午後七時から開く。岩本伴江校長、ここでも「なんぞえ私？」。バラメダカ「若いからいくつ」「じゅうく」「そうでしょ」。(※ホントは孫がいるおばあちゃんです、ナイシヨ)。授業の方は、いつもはテーマから入るが今回は推せんなどもあり「人」から入る。「竹炭を使った浜口弘睦さんのマスクはどう？」「古橋利雄さんも面白いよ。丸一物産の社長としていろいろなことやっている」「女性は？」「合気道の道場を開いている寺田悦子さんは？」。他に何人かの人が出たが今回はこの3人で。科目と題名は……。一時間目は浜口弘睦先生で理科「竹炭とマスク」。二時間目は寺田悦子先生で道徳「合気道」。三時間目は古橋利雄先生で社会「どうずら屋」。鈴木武史メダカの独特の方言をいたしている……。本番用の題名は少し尾ヒしをつけているが……。今回のキーワードは『企業』。岩本校長先生は、元氣いっばいの女性企業人です。『負けそう』とは影の聲。

はてさて、平成19年9月の第57回めだかの学校から『15周年』に入る。15周年記念事業については実行委員会が話し合つてもらつたこと。実行委員会には、5月10日とよおか元氣村「味里」で開く実行委員会『委嘱状』を手渡します。「全国地域づくり交流会議」「大同窓会」「遠足」「文化祭」「マラニック」など、提案されている記念事業などについて検討していただきます。通常の職員会議とは別です。よろしくお願ひいたします。

■今回も便りの発行が遅れてしまいました。申し訳しませんが、4月29日で67歳。体力の衰えと集中力、記憶力の低下を実感しています。そんな私を応援の松本芳廣メダカ、伊藤英雄メダカ、服部守孝メダカ、鈴木武史メダカ、石野省三メダカ、本島慎一郎メダカ、照井易子メダカたち、ありがとう！。感謝！

■第15期の継続手続きを始めます。15期は19年9月1日から20年8月31日までです。継続希望者は全員手続きが必要です。申込書を同封します。ご記入のうえ千円を添えてお申込み下さい。6月1日から受け付けます。出席できない方は、8月31日までに郵送して下さい。未手続きの生徒は、名簿からはずれ自動退学となります。入校を希望する方がいましたら、「ご連絡下さい。資料と申込書を事務局から送ります。」

■めだかの便りの原稿と情報！ 次回発行は8月1日です。7月20日までに郵便か「エ」で。メールの方は、メール/lat@medaka.netまで(メールの方は割付の関係もあるので一報下さい)。

■めだかの学校事務局 〒43003 浜松市浜北区横須賀395の1 榊原幸雄 TEL053・586・8287(FAX同) ※6月1日以降は、〒4338・0105 磐田市家田529の20 TELは未定。

「迷惑をおかけしていますが、よろしくお願ひいたします。 ※学舎「みどりの郷」は何もありません。連絡・お問ひ合わせは「事務局」まで。

